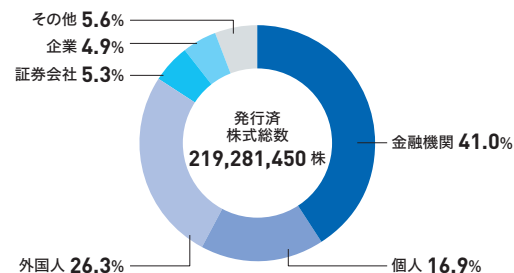


株式の情報 (2022年3月31日現在)

大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	47,837,300	21.81%
2	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	20,863,500	9.51%
3	アルプスアルパイン株式会社	12,076,076	5.50%
4	ゴールドマン証券株式会社	4,256,400	1.94%
5	J.P. Morgan Securities plc	3,871,515	1.76%

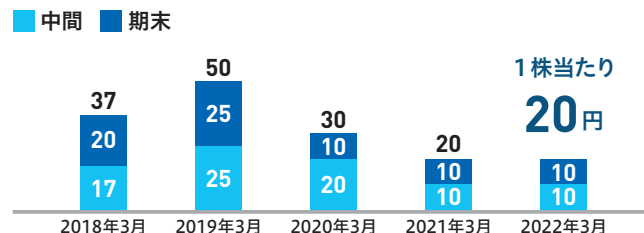
所有者別分布状況



(注) その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式、政府・地方公共団体株式の合計です。

(注) 個人は、個人・持株会名義の株式です。

配当金推移 (単体)(円)



※第86期(2018年度)中間期までは旧アルプス電気単体の配当金額です。

株主メモ (2022年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会	毎年6月下旬
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ (https://www.alpsalpine.com/j/ir/announce.html) に掲載します。 なお、やむを得ない理由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京(プライム市場)証券コード6770
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 ホームページ https://www.tr.mufg.jp/daikou/

三菱UFJ信託銀行証券代行部 検索

【ご注意】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター

お問い合わせ ☎ 0120-232-711

受付時間: 土・日・祝日を除く平日9:00 ~ 17:00

ALPSALPINE

証券コード 6770



ALPS ALPINE REPORT

No. 177

第89期 報告書

アルプスアルパイン株式会社
2022年6月23日

ALPSALPINE
アルプスアルパイン株式会社

〒145-8501 東京都大田区雪谷大塚町1番7号
TEL (03) 3726-1211 (大代表)
(03) 5499-8026 (IR部門直通)



こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して作成しました。



第2次中期経営計画をスタート
「革新的T型企业」をめざし
ステークホルダー価値の最大化、
CSR/ESGの両立で更なる成長へ

皆様へ

樹木の緑が色合いを深め、夏の到来を感じる季節となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2021年度エレクトロニクス業界では、自動車市場における半導体をはじめとした部品不足の長期化により新車生産に影響を及ぼしました。民生その他市場ではスマートフォン新機種が好調に販売台数を伸ばし回復基調となりました。

当社電子部品事業における車載市場では、昨年秋以降新車生産が回復基調となったことから前期比で売上高が増加しました。民生その他市場では、ゲーム市場及びスマートフォンの好調が継続し、ゲーム機やモバイル機器に搭載のコンポーネント製品などの売上高が前期を上回りました。

車載情報機器事業では、一部の自動車メーカー向け純正品の販売終息により、売上高は軟調に推移しました。また、開発活動では半導体企業や他の有力企業との協業により未

来の車室内空間「Digital Cabin」の実用化に向けて具体的な取り組みを進めました。また、非接触型インプットデバイスの開発や様々な市場へのスイッチやセンサ技術を活用した提案型新製品の投入を行いました。

さて、当社は2019年第1次中期経営計画をスタートし経営統合がひとつの区切りを迎え、2022年度から第2次中期経営計画をスタートさせています。2019年の経営統合時に、会社のめざす姿として発表した^{*}革新的T型企业の実現に向けて、第2次中計では「ステークホルダー価値の最大化」と「企業の社会的責任とESGの両立」を掲げ、ハードウェアとソフトウェアの両技術で新たな価値を創出する会社をめざします。目標達成に向けた事業シナリオを構築し、事業セグメントを新たに「コンポーネント事業、センサ・コミュニケーション事業、モジュール・システム事業」へと変更し、それぞれの事業シナリオを「収益基盤、伸ばす、改善」と位置づけています。

物流事業((株)アルプス物流)につきましては、グループガバナンス改善を目的とし2023年3月期第2四半期以降、当社の連結対象子会社から持分法適用会社へ変更することとなりました。枠組みの変更とはなりますが、今後も当社のグループ会社に属することは変わらず、(株)アルプス物流の経営の独立性を確保しながらこれまで同様グループ連携は維持し、両社の関係を今後も継続していきます。今後もグループ一丸となり、更なる成長へと努力を重ねていく所存です。

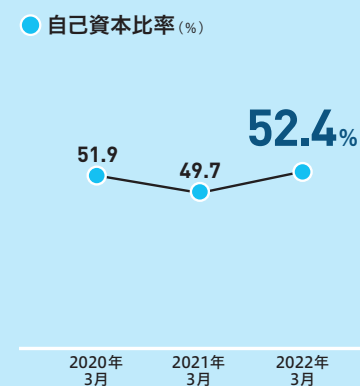
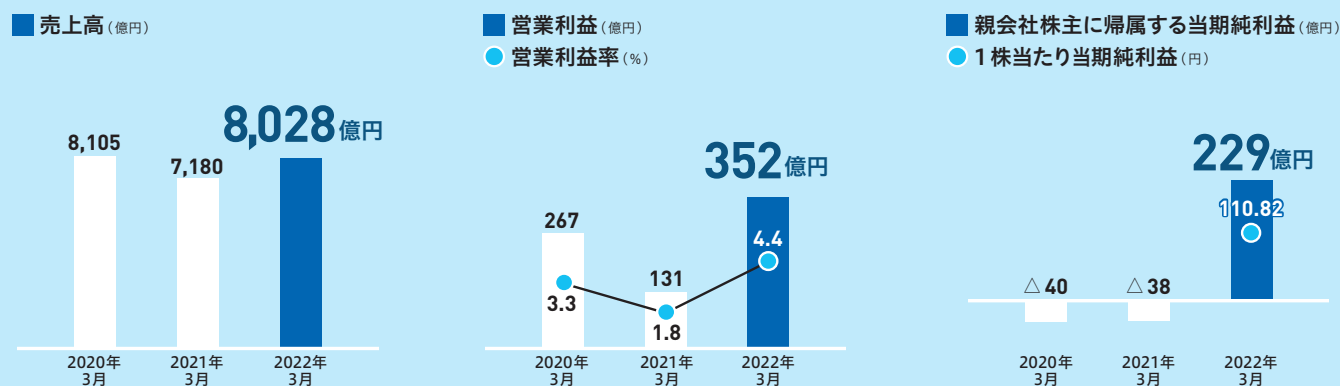
当期の期末配当は1株当たり10円とさせて頂く予定に加え、自社株式の取得を行います。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

※コアデバイスを深耕する「縦のI型」と、広範なデバイスや技術をシステムに仕上げる「横のI型」を合わせた「T型」企業

代表取締役社長 栗山年弘

連結業績ハイライト

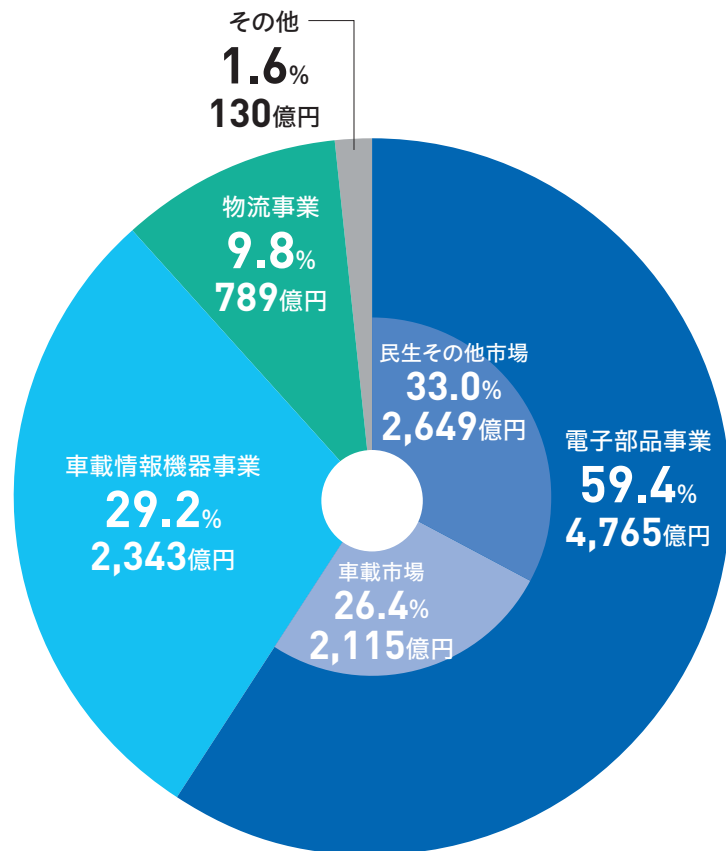


通期の見通し(2023年3月期業績予想)

▶売上高	8,350 億円 (前期比 4.0% 増)
▶営業利益	475 億円 (前期比 34.9% 増)
▶経常利益	475 億円 (前期比 17.9% 増)
▶親会社株主に帰属する当期純利益	330 億円
▶想定為替レート	米ドル/円 120・ユーロ/円 130
▶1株当たりの配当金(単体)	20円(中間) 20円(期末)

※2022/3 為替レート: 米ドル/円 112.37・ユーロ/円 130.56

売上高構成比率



POINT

電子部品事業：世界初、国立大学法人宇都宮大学と非接触操作についての共同開発を発表

車載情報機器事業：テイ・エス テックと次世代車室内空間の開発に向けた業務提携契約を締結

物流事業：株式会社アルプス物流が連結子会社から持分法適用会社へ異動

電子部品事業

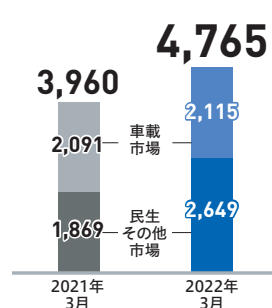
売上高

4,765 億円

営業利益

322 億円

売上高の推移 (億円)



車載市場は新車生産が回復基調となり好転、民生その他市場は好調継続

エレクトロニクス業界において、世界の自動車市場は、半導体をはじめとした部品不足の長期化が自動車の減産影響となり、十分な生産が困難な状況になるなど深刻化しましたが、昨年末から回復傾向となりました。また、ゲーム市場及びスマートフォン市場は好調が継続し、新機種の販売台数が増加しました。

車載市場 未来のモビリティ提案へ具体的な取り組みを推進

車室内全体を高品位かつ快適な空間に仕上げ未来のモビリティへ提案する、デジタルキャビンの実用化に向け有力企業と協業するなど具体的な取り組みを進めました。

民生その他市場 様々な市場に向けた提案型新製品を投入

各種検出スイッチの新製品、センサ技術によるIoTソリューションを活用したアナログメータ監視システム、更に静電容量、再帰性反射、加飾印刷などの技術を融合した非接触型入力デバイスの共同開発などを進めました。



車載情報機器事業

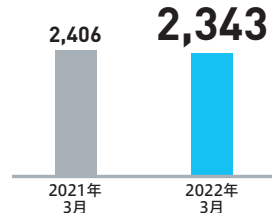
売上高

2,343 億円

営業利益

△45 億円

売上高の推移 (億円)



厳しい事業環境の中、業績改善に向けた施策を推進

ディスプレイ製品やサウンドシステム製品が好転し売上を牽引しましたが、一部自動車メーカー向け純正品の販売終息により、売上高は前期比で軟調に推移しました。こうした厳しい事業環境の中、リソース配置の見直しや固定費の抑制に取り組み業績改善を推進しました。



物流事業

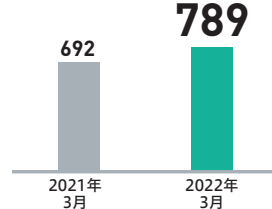
売上高

789 億円

営業利益

60 億円

売上高の推移 (億円)

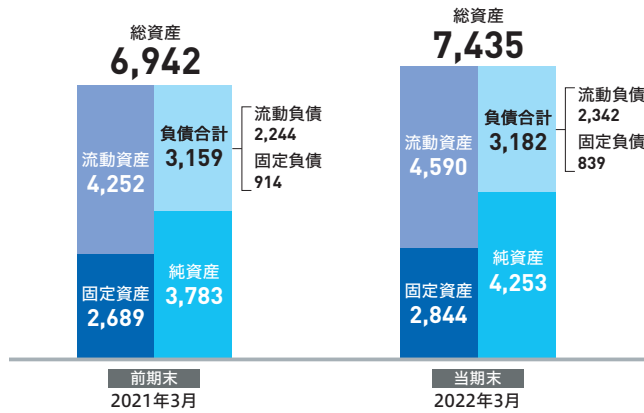


国内、海外の保管、輸送、輸出入全てにおいて売上増加

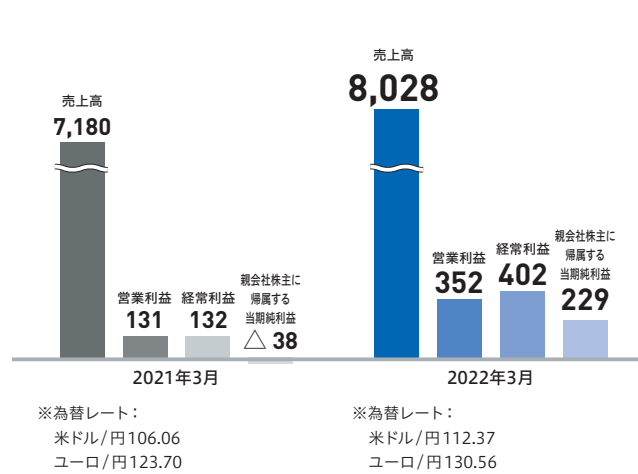
通信、情報機器向け及び自動車関連における電子化やEV化の流れから電子部品の需要が増加。日本や中国の既存地域に加え、インドや東欧の拠点・ネットワーク整備及び自動車や産業機器関連の顧客拡大を進めました。



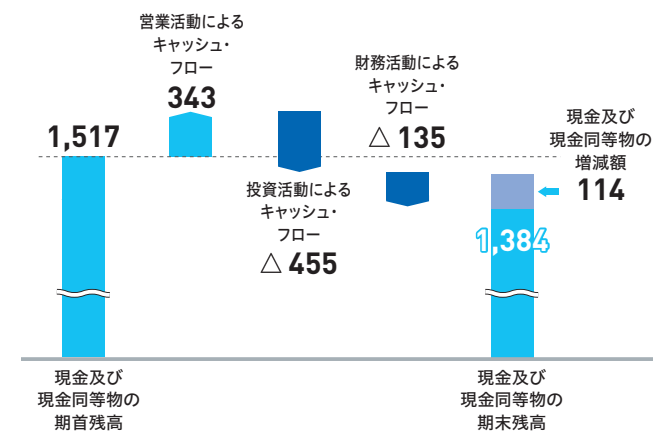
連結貸借対照表の概要 (億円)



連結損益計算書の概要 (億円)



連結キャッシュ・フローの概要 (億円)



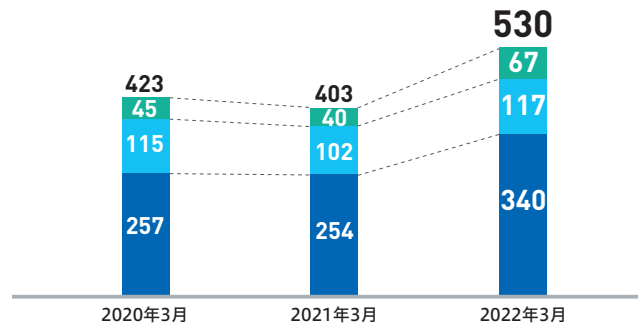
POINT

- 流動資産**
棚卸資産、受取手形及び売掛金の増加、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末と比べ337億円増加の4,590億円となりました。
- 固定資産**
建設仮勘定、投資有価証券の増加等により、前連結会計年度末と比べ154億円増加の2,844億円となりました。
- 負債合計**
流動負債は、短期借入金、支払手形及び買掛金の増加と、未払費用の減少等により、前連結会計年度末と比べ98億円増加の2,342億円となりました。固定負債は、長期借入金の減少と、退職給付に係る負債の増加等により、前連結会計年度末と比べ75億円減少の839億円となりました。

設備投資・減価償却費・研究開発費の推移 (億円) ※内訳には連結消去を含んでおりません。

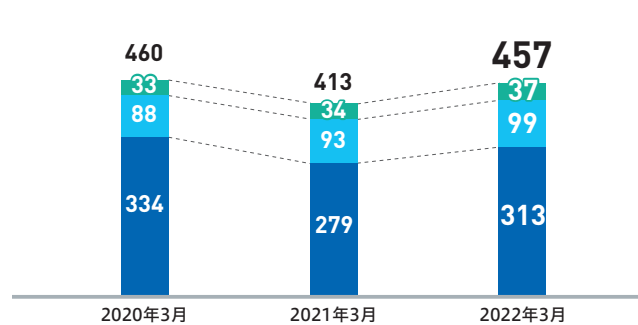
設備投資

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業
- 物流事業



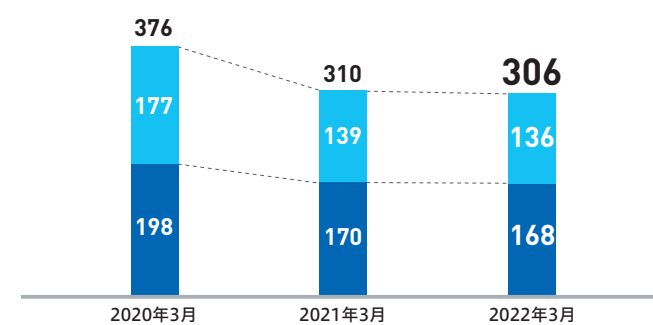
減価償却費

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業
- 物流事業

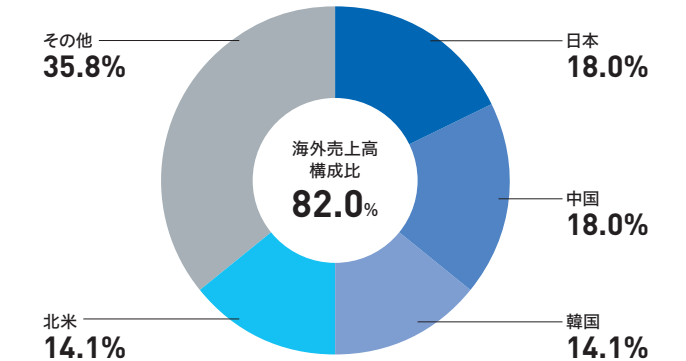


研究開発費

- 電子部品事業
- 車載情報機器事業



国別売上高構成比



第2次中期経営計画

めざす会社の姿 & 事業の姿

“ITC101” 革新的T型企業、営業利益率/ROE 10%、営業利益額 1,000 億円 2027年度

- ・ステークホルダー価値の最大化と ESG^{*}の両立
- ・ハードウェア+ソフトウェアの両技術で感動・安全・環境の価値を創出するT型企業

※ ESG: 環境 Environment 社会 Social 企業統治 Governance

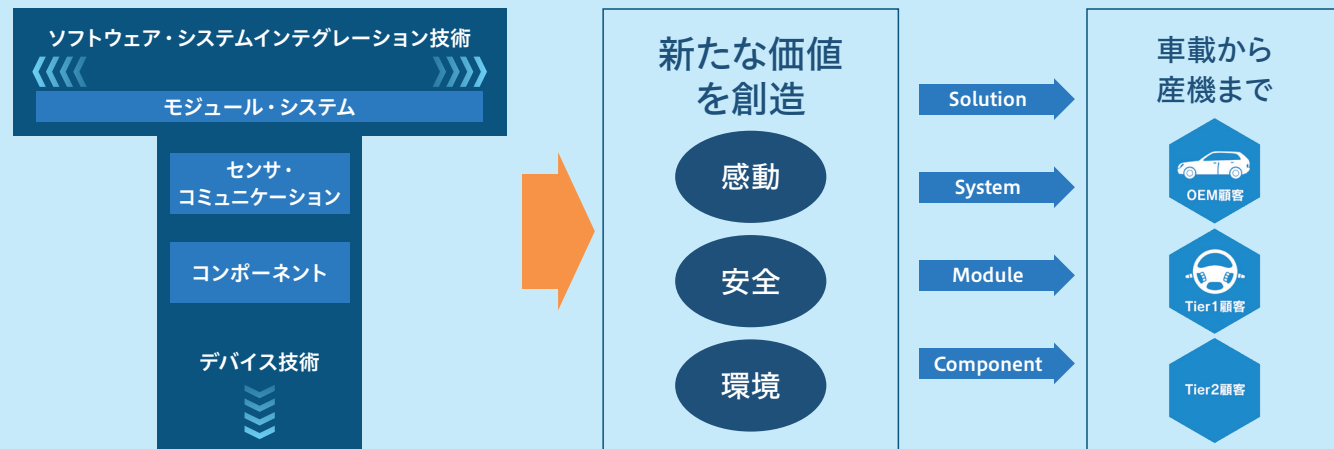
第2次中期経営計画目標

2024年度目標: itc88 … 営業利益率8% (=ROE10%)、売上高 Min. 8,000 億円

事業の良質化/コスト改革/ケイパビリティ改革の継続で成長軌道へ復活する

T型戦略の推進

- ①技術の融合 : 縦の旧アルプス電気技術×横の旧アルパイン技術
- ②製品 : コンポーネントからソリューションまで
- ③ビジネス : Tier1/2、OEM顧客から産機まで



資本政策と株主還元について

資本政策は、成長投資、健全な財務、株主還元、3つのバランスを重視しています。

- ①成長投資 2,000 億円 (設備投資や戦略投資など)
- ②健全な財務: 自己資本比率の50%以上、十分な手元資金の確保
- ③株主還元: 「安定配当+業績連動」
単年度25%もしくは20円の大きい基準で安定配当、3年累計(平均)35%の総還元

不透明な事業環境が続く中、将来ビジネスを確保し、持続的に成長するための投資と、安定した自己資本と手元の流動資金を確保することで、健全な財務基盤を構築し、安定かつ業績に連動した株主還元へ反映させます。

2023年3月期より開示セグメントを変更します。


売上区分		主な製品	売上区分	主な製品
電子部品事業	車載市場	車載向けコンポーネント デバイス モジュール	コンポーネント事業	スイッチ類 アクチュエータ ハブティック
	民生 その他市場	民生向けコンポーネント アクチュエータ センサ	センサ・コミュニケーション 事業	センサ 通信デバイス
車載情報機器事業		インフォテインメント ディスプレイ サウンド	モジュール・システム事業	車載モジュール インフォテインメント ディスプレイ サウンド
物流事業			物流事業 (第2四半期以降は、その他に統合)	
その他			その他	

第2次中期経営計画


セグメント毎の位置づけを明確にし、事業環境変化に適応します。

センサ・
コミュニケーション
事業


伸ばす
成長ドライバー
Safety & Green




電流センサ
(HV/EV車向け)



5G/C-V2X



センサネットワーク



モーション
センサー

幼児検出

モジュール・
システム事業

改善
事業の良質化
Digital Cabin



車載スイッチ類



統合HMIディスプレイ

Smart control panel



Cabin Controller

コンポーネント事業

収益基盤
維持・拡大
Base Products



レンズアクチュエータ

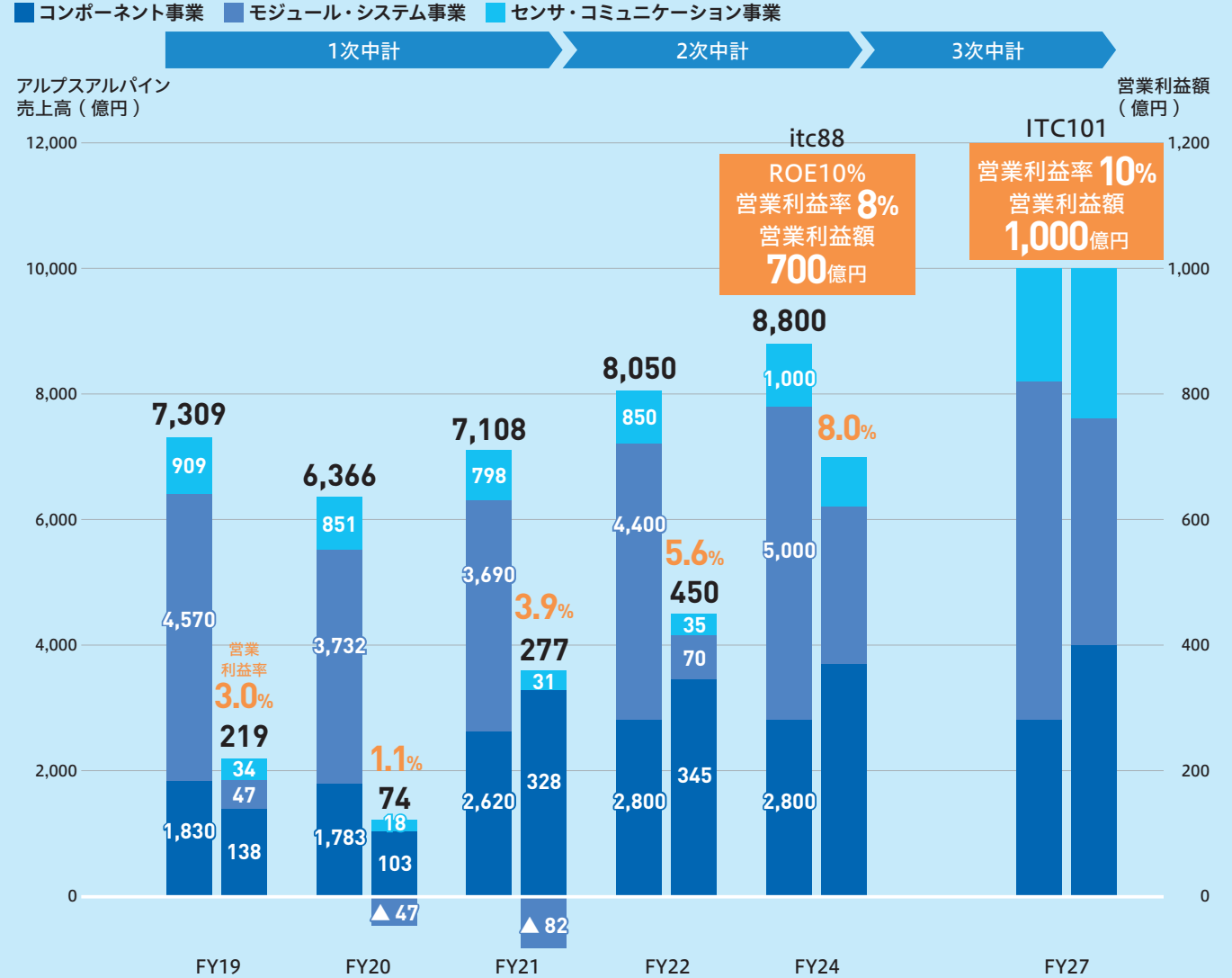


タクトスイッチ®



ハブティックリアクタ

2024年度売上・営業利益 itc88 計画: 営業利益8% (=ROE10%)、売上高 Min. 8,000 億円



※売上高、営業利益ともに物流事業除く
※FY2024売上高8,800億円は2022年5月段階での為替動向を反映したものの

成長領域：センサ・コミュニケーション事業

予防安全製品
「Safety」

車外通信	ミリ波	イメージング	静電
 <p>5G & C-V2X</p> <p>デジタルキー</p>	 <p>モーションセンサー</p> <p>側方・周辺障害検出</p>	 <p>キャビンモニタリング</p> <p>駐車アシスト</p> <p>BSIS</p>	 <p>ハンズオフ</p> <p>ジェスチャー</p>
 <p>産機</p> <p>Local 5G</p>	 <p>3Dレーダー</p> <p>自動走行センサ</p> <p>測距/物体認識</p>	 <p>AirInput™</p>	 <p>AirInput™</p>

環境関連製品
「Green」

<p>電気自動車用電流センサ</p> 	<p>2輪車向け燃料噴射センサ</p> 	<p>CO₂センサ</p> 
<p>IoT/ソリューション</p> <p>物流トラック</p> 		

ESG：優先的に取り組むテーマ

① 脱炭素社会・循環型社会の実現 ② 人権・D&I ③ サプライチェーンマネジメント

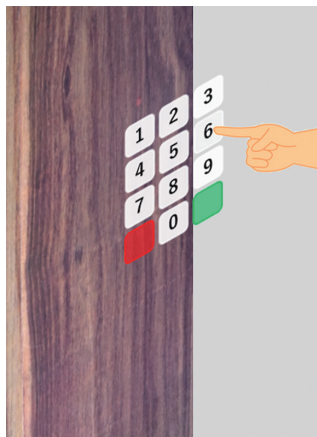


TOPICS
1月
世界初「ステルス空中インターフェース」を
宇都宮大学と共同開発

アルプスアルパインは世界初となる次世代HMI (Human Machine Interface) 製品「ステルス空中インターフェース」を国立大学法人宇都宮大学 (以下「宇都宮大」) と共同開発しました。「ステルス空中インターフェース」は、空中入力デバイスに空中表示機能を融合させることで、空中に浮かんだ映像に触れる要領でユーザーにストレスを感じさせない直感的かつ快適な非接触操作を実現する製品です。

本製品を通じて、アルプスアルパインはニューノーマル社会における感染症リスクの低減あるいは指紋の盗難といったセキュリティリスクの低減を目的とした公共空間の入力デバイスへの非接触ニーズに応え、ユーザーの安全に貢献します。また同時にユーザーに安全・快適・感動をもたらす、これまでにない新たな非接触操作体験を提供します。

今後は市場調査を進めるとともに製品の完成度を高め、まずは25年を目途にエレベータや券売機など公共空間、セキュリティが求められるエリアでの表示・操作部への採用を目指します。



「ステルス空中インターフェース」イメージ図

TOPICS
4月
ゼネラルモーターズ社より
「2021年サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」
を受賞

米ゼネラルモーターズ社 (以下GM社) がサプライヤー各社の2021年の取り組みを評価する「第30回サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」表彰式にて、アルプスアルパインはサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。

AlpsAlpine North AmericaのCameron Hosnerは「10年連続でサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞し、誇りに思います。非常に関係の良いGM社と、業界における大きな変化と混乱のこの時期をともにリードすることを楽しんでいます。」と喜びを述べました。

GM社のShilpan Amin氏は「今年のサプライヤー・オブ・ザ・イヤーのイベントは、プログラムの30周年であるだけでなく、業界がこれまで直面してきた中で最も困難な年の一つを耐え抜いたサプライヤーを表彰する特別な機会でした。また、これらのトップサプライヤーは持続可能性とイノベーションを追求するというコミットメントを強化しています。GMとサプライヤーは、強い協力関係を通じて次世代のための明るい未来を築く体制を整えていきます」と述べられました。

ゼネラルモーターズ社について

ゼネラルモーターズ社は、人々の移動をより良く安全に、より持続可能な方法で提供することを約束するグローバル企業です。ゼネラルモーターズ社とその子会社およびそのジョイントベンチャーは、シボレー、ビュイック、GMC、キャデラック、ホールデン、パオジョン、ウーリンのブランド名で車両を販売しています。

TOPICS
4月
「AlpineF#1Status」が
「iF Design Award 2022」を受賞

アルプスアルパインが開発した世界最高峰のカーオーディオ「AlpineF#1Status (アルパイン エフナンバーワン ステータス)」が、世界で最も権威のあるデザイン賞の一つ「iF Design Award 2022」を「プロダクト」分野で初受賞しました。

■「AlpineF#1Status」について

業界初の384kHz/32bitハイレゾ再生を実現した、生の演奏が持つ迫りくるかのような臨場感を車室内に生み出すことのできる世界最高峰のカーオーディオです。優れた性能のみならず、余計な装飾を省いたデザインにより凛とした佇まいの美しさを追求するとともに、大容量の音源データを内包し高速処理する様を重厚感のある造形や奥行きのある発光インジケーターにより“内に秘めた凄み”として表現。その他ハードキーの照光には特注の発光ダイオードを用いるなど、アルプスアルパインがこれまで培ってきた音作りの思想を引き継ぎながらもハイレゾ再生の“圧倒的な音の良さ”を感じられるようにデザインの細部までこだわり抜いた製品です。



社名	アルプスアルパイン株式会社
英文社名	ALPS ALPINE CO., LTD.
設立	1948年11月1日
資本金	387億3,000万円 (2022年3月末現在)
従業員数 (連結)	36,900人
事業内容	オートモーティブ・モバイル・エネルギー・IoT・インダストリー各分野の各種電子部品・電子機器の研究・開発・製造・販売

ホームページのご紹介

トップページ



<https://www.alpsalpine.com/j/>

IRページ



<https://www.alpsalpine.com/j/ir/index.html>